

停電対応信号機を増設

道議会特委 菊地 道議に道警が回答

大災害で停電しても非常用電源で点灯する「停電対応信号機」の設置促進をと、日本共産党の菊地葉子北海道議は、道議会決算特別委員会（8日）で質問し、北海道警察は小樽市などに34基新設すると回答しました。

警察庁は東日本大震災が発生した2011年、全国の主要幹線道路に設置されている重要信号機への「電源付加装置」の整備方針を示し、大震災以降、約2倍になったもの



質問する
菊地道議

の、全国の整備率は4・6%と低いままです。北海道地震で全国初の全域停電（ブラックアウト）が起きた道内は、「停電対応信号機」がわずか1・5%です。

道警は手信号での交通整理を実施。信号機が消えた9日までの4日間で、負傷者を伴

う交通事故は道内で51件発生しました。

菊地氏は「1・5%はあまりに低すぎる。警察庁の設置基準を踏まえると、今後どこにどれだけ増やすつもりか」と迫りました。

道警は「国の整備基準を踏まえた17年度末の必要数は293基で、18年度中に、函館市、旭川市、苫小牧市、小樽市などに電源付加措置を34基新設する」と答えました。

西川寿典交通部長は「災害発生時の混乱を最小限に抑えるため、国の整備基準を踏まえた電源付加装置の整備を計画的に推進していく」と述べました。